



がんゲノム情報管理センター (C-CAT) の役割

福田博政[†] 河野隆志

IRYO Vol. 74 No. 3 (120-126) 2020

【キーワード】 がんゲノム医療, データ利活用, C-CAT, データ共有, インフォームドコンセント

はじめに

厚生労働省が2017年に設置した「がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会」で、がんゲノム医療提供体制構築の具体的な進め方が検討され、その報告書¹⁾がわが国のがんゲノム医療実装の基本コンセプト・設計書となった²⁾。これをもとに厚生労働省は2018年に、がんゲノム医療提供機関としてがんゲノム医療中核拠点病院（以下、「中核拠点病院」）およびがんゲノム医療連携病院（以下、「連携病院」）を指定・公表するとともに、がんゲノム情報の集約・管理・利活用を図るための機関として、がんゲノム情報管理センターを国立がん研究センター内に設置した（図1）。同センターの英語名Center for Cancer Genomics and Advanced Therapeuticsより、以下C-CATと略す³⁾。図1に示したように、がんゲノム医療中核拠点病院等連絡会議に、5つのワーキンググループ（WG）が設置され、日本全体でがんゲノム医療を推進するための体制整備について検討してきた。

本稿では、まずC-CATの役割について概説し、次に筆者らがインフォームドコンセント・情報利活用WG（ICWG）の事務局として関与してきた倫理・

ICやC-CAT集積データの利活用に関する整備状況について紹介する。

わが国のがんゲノム医療とC-CATの役割

2019年6月に2つのがん遺伝子パネル検査が保険適用となり、わが国のがんゲノム医療提供体制（図2）が本格始動した³⁾⁴⁾。2019年9月には新たにがんゲノム医療拠点病院（以下、「拠点病院」）が指定され、がんゲノム医療を提供する医療機関として、中核拠点病院11施設、拠点病院34施設およびこれらの中核病院・拠点病院と連携する連携病院122施設（施設数は2019年10月現在）が整備された⁵⁾⁶⁾。図2に示すように、各病院から臨床検査会社にごん遺伝子パネル検査の発注がなされると、検体が病院から発送され、解析後、検査報告書が病院へ返却される。C-CATへの情報登録の同意が得られている場合には、匿名化された臨床情報・ゲノム情報が病院よりC-CAT内に構築された国のがんゲノム医療・研究のマスターデータベースである「がんゲノム情報レポジトリー」へ登録される（ゲノム情報は検査施設から直接C-CATに登録される場合もある）。

国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター 情報利活用戦略室 [†]研究職（基礎）

著者連絡先：福田博政 国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター 情報利活用戦略室

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

e-mail: hfukuda@ncc.go.jp

(2019年11月22日受付, 2020年2月14日受理)

The Role of C-CAT (Center for Cancer Genomics and Advanced Therapeutics) for Cancer Genomic Medicine in Japan Hirokazu Fukuda and Takashi Kohno, Section of Data Science Strategy, Center for Cancer Genomics and Advanced Therapeutics (C-CAT), National Cancer Center

(Received Nov. 22, 2019, Accepted Feb. 14, 2020)

Key Words : cancer genome medicine, data utilization, C-CAT, data sharing, informed consent